

e

経済学が  
もっと  
面白くなる

c

情報&メッセージ!

o

2007.冬  
エコノ  
No.17

n.



# 就職



学生から社会人へ。  
これが、就職活動だ!



Pick up!!  
座談会

先輩から後輩へ～就活戦線に勝ち抜く心構え

企業社員の生の声が  
もっと聞きたい。  
いろいろな職種に面白みと  
やりがいを感じる。



就職活動は、  
単身東京で孤軍奮闘。  
驚異的な行動力と情熱で、  
あこがれの業界に。

# 私の就職活動

就職活動は、多くの学生にとって、これまで培ってきた能力や人間力で挑む、大学生生活の集大成ともいえるもの。就活シーズン本番を迎えた3年生、すでに活動を終え、栄える内定を得た4年生。それぞれの立場から、疑問や体験談、メッセージなどを語っていただいた紙上座談会。これが、就職活動だ!



北海学園大学  
就職部主任 赤坂 武道  
(本学法学部卒業生)

民間企業志望者全般を担当。キャリア支援を行う専門職で、より高度な支援を実現することが出来るキャリアカウンセラー(GCDF-japan)を取得している。



◆経済学部4年

**橋詰 佳奈**  
就職活動は、単身東京で孤軍奮闘。驚異的な行動力と情熱で、あこがれの業界に。



◆経済学部4年

**吉村 智和**  
高度な計画性と実行力、その明晰さで、難関ともいえる金融業界にみごとに合格。



◆経済学部3年

**岡本 裕樹**  
企業社員の生の声をもっと聞きたい。いろいろな職種に面白みとやりがいを感じる。



◆経済学部3年

**高田 ゆりか**  
今はいろいろな職種、業界に興味あり。好奇心が旺盛で人との新しい出会いに感動。



◆経済学部3年

**前多 賢大**  
ファーストフード店で店舗責任者経験有り。店舗運営やスタッフ教育で就職の一端を知る。

## 就活戦線を勝ち抜いた頼もしい先輩たち!

**赤坂◆**今日は、本格的な就活時期を迎えた3年生と、すでに内定をもらっている4年生に集まっていたいただき、就職についての心構えや疑問、リアルな就職活動について話をしていきたいと思えます。

まず、金融関係に内定が決まっている吉村さんから話してもらえますか。

**吉村◆**本格的に取り組んだのは、冬を迎えるちょうど今ごろからです。ゼミでやらなければならないことが沢山あって忙しい時期だったので、適性テストやガイダンスが実施され、就職のことを真剣に考えなければいけない、と焦っていました。そこで年末から、いろいろな企業説明会に参加しました。2月には業種や企業を絞って、単独の企業説明会に出たり、その後エントリーシートを提出したりしました。内定をいただいた企業の場合は、4月初めが最初の面接で、中旬に2回目があり、5月初旬に行われた役員面接が最終でした。その後、意思確認があり正式に内定ができました。

**赤坂◆**橋詰さんの場合は、独自のスタイルで内定を勝ち取ったという感じですね。

**橋詰◆**私が内定をいただいたのは、東京に本社がある結婚式をプランニングする企業です。3年生の夏ごろから、具体的にその仕事に就きたいと考え始めたのですが、どこから手をつけていいのか分かりませんでした。就職部に相談したところ、関係する本を紹介していただき、調べていくと、札幌にウェディングプランナーのスクールがあることを知り、早速、入校しました。同時に、結婚式場でのアルバイトも始めました。そのアルバイト代を軍資金として、2月の試験が終わってから2か月間、ユースホステルなどを拠点にしながら、東京で就職活動を行いました。数社を受け、内定が出たのが4月の初めころです。

**赤坂◆**内定に至るまで、特に注意を払ったことは何かありますか?

**吉村◆**特に気をつけたことは、エントリーシートの記入です。その内容に沿って面接されることが多いので、自分の考えや意見を明確にまとめておく必要があります。それを常に念頭に置きながら、周辺のエピソードや話題を織り交ぜて自分をアピールしていきました。数社の入社試験を受けたのですが、面接のたびに反省をし、ここを直そうと意識しながら対応していきました。

**橋詰◆**私の場合、単身で東京へ出かけての就職活動でしたので、他人と話をするのは面接の時だけという日が数日もあり、思うような感触が得られないときや、ちょっとしたミスをしてしまったときなど、落ち込むことが沢山ありました。就活資金も少なくなってくると、本当に気持ち

が萎えましたね。でもそんなとき「私にはこの道しかない!」と自分に言いかけ、面接でも思いきり気持ちを奮い立たせて臨みました。どんなときでも気持ちを強く持つことがとても大切だと思います。

**赤坂◆**とても頼もしい先輩たちですね。そんな先輩を持ち、これから本格的な就職活動を迎える3年生ですが、今はどんな状況ですか?

**前多◆**自分の進みたい分野の企業にエントリーしたり、調べたり、どのような仕事があるのかいろいろガイダンスを受けたりしている状況です。

**岡本◆**現在の状況は、インターネットなどでどのような企業があるのかを調べたり、そこに紹介されている企業スタッフのメッセージを読んで、具体的な仕事を理解したりしているところです。製造や販売、営業など、職種に限らず、それぞれにやりがいや面白みを感じています。

**高田◆**お二人とも、すごい計画性と行動力がありうらやましいです。私の場合も、今はあまり的を絞らず、興味のある企業にいろいろエントリーしています。調べていくうちに、やってみたい職種がどんどん出てきて、どれも面白そうと感じるようになってきました。最初は、どんなことから始めたのか、ぜひ聞いてみたいです。

## 自分探しの、ワンポイントは?

**吉村◆**最初はみなさんと一緒に、何から手をつければいいのか分からず悩みました。そんな中で、まず考えたのが自分はどんな人間なのだろうという自己分析です。これまでの経験や体験などを書き出して、うまく出来たことに対し、自分はなぜそれが出来たのかを客観的に評価していくうちに、具体的な自分が見えてきました。そしてそんな自分に一番合うのはどんな仕事だろうと考えました。段階を踏んで現実の企業と照らし合わせていきました。

**橋詰◆**私が手にした就活関係の本に、自分の年表を作るページがありました。これまでの自分とこれからの自分を書き入れていくもので、「思いつくことすべて」などという箇所もあります。そこに書き込んでいくと、パーティーの思い出や団体活動の経験などがよく登場し、何でこれが好きなんだろう、思い出に残っているんだろうと考えました。そのようなことから、自分の個性や性格を客観的に知る手がかりになるのではないかと思います。

**赤坂◆**大学でも適性や性格を判断するSPI検査を実施しますが、自分を客観的に評価することは簡単ではありません。ぜひ心がけてほしいことは、自分で考えていること、やりたいことを言葉にして、親とか、友達とか、先生とか、就職部とか、どんどん人に伝えることです。自分の考えをアウトプットするということは、ある程度、考えが整理されているということです。そうやって

自分の思いを人に伝え、意見やアドバイスを聞き、それを繰り返すなかで自分の個性や適性、考え方がより明確に具体化されていきます。

## 成功に近づく一冊のノート

**岡本◆**意中の企業を決めていく上で、何か、いいアドバイスがあれば教えてください。

**吉村◆**まず、気になる企業をいろいろピックアップし、それらのデータや情報を書き込む「就活ノート」を作りました。見開きページに1企業と決めて、インターネットなどで基礎的な情報を調べ、整理してそれぞれに書き込んでいきました。僕が当初、エントリーした企業は20社ほどです。そして各企業の残りのスペースには、実際に説明会に出て聞いた企業の方の話や、面接での担当の方の話などをメモし、後でまとめていきました。そうやっていくうちにそのノートは生きた情報へと変わり、その企業に対する自分の考えをまとめるための最高の資料となります。面接などでも、大いに役立ちました。そういう中で、意中の企業を絞り込んでいきました。

**橋詰◆**私もノートを作りました。説明会などで印象に残った先輩の話や説明を書き込んだり、自分のページを作って、感想や考えを整理したりしました。また、その企業に対して、自分がアピールしたい能力やポイント、伝えたい経験談なども具体的に書いていきました。そのノートを作る作業を通して、企業が求めている能力や要素と自分とを照らし合わせていくことができたと思います。

**前多◆**そういうノート作りなら、今からでも始められそうです。

**高田◆**私はもう、作っています。

**岡本◆**それによって就活の具体的な一歩が踏み出せそうです。

**赤坂◆**就職は、自分の興味があること、好きなこと、やってみたいことにチャレンジするのは基本ですが、ただ、それに固執しすぎると、挫折したときに行き場がなくなってしまうこともあります。おそらく一生のうちでこの時期ほど、就職の条件や選択が保証されているときはありません。せつかくの機会なのですから、より広く視野を持ち、今まで興味なかった分野も含めて幅広く見てほしいですね。いろいろな職種や分野を知り、それでもやっぱり自分はこれなんだ、と結果を出した方が説得力があります。私たちも、最大限のバックアップをおしませません。本日は、みなさん、貴重なお話をありがとうございました。





# 経済学部就職状況 (2007年12月1日現在の 内定先一覧)

## 公務員

北海道職員(中級)/国税専門官/北海道警察/札幌市役所/千歳市役所/登別市役所/士別市役所/更別村役場/音更町役場/自衛隊曹候補士

## 各種団体

北海道漁業協同組合連合会/北海道信用漁業協同組合連合会/生活協同組合コープさっぽろ/石狩地区農業共済組合/空知商工信用組合/医療法人紺医会神奈川苑/国立大学法人(その他)/ホクレン農業協同組合連合会/北海道信用農業協同組合連合会/北海道建設業信用保証/北海道信用保証協会/新函館農業協同組合/札幌振興公社/コンピュータシステム研究所

## 金融業(銀行)

北洋銀行/北海道銀行/みちのく銀行/北海道労働金庫/苫小牧信用金庫/旭川信用金庫/帯広信用金庫/空知信用金庫/北門信用金庫/北央信用組合/北海信用金庫/日高信用金庫/遠軽信用金庫 他

## 金融業(証券)

日本ファースト証券/上光証券/新光証券/岡三証券/日興コーディアル証券/東海東京証券

## 金融業(保険)

第一生命保険相互会社/東京海上日動火災保険/ニッセイ同和損害保険/ソニー損害保険

## 運輸/通信業

北海道旅客鉄道/北海道空港/札幌通運/北海道中央バス/ナラサキスタックス/山谷運送/フォーバル

## 出版/印刷業

リクルート/北海道アルバイト情報社/富士ゼロックス/大日本印刷/恵和ビジネス

## サービス業(旅行)

ジェイティービー/JTB北海道/ビッグボーイジャパン/エイチ・アイ・エス/トップツアー/名鉄観光サービス/野口観光/京王観光

## 公務員データ(全学部)

順位	私立	大学名	合格者数(人)
1		東京大学	229
2	①	慶応義塾大学	60
3		京都大学	59
4	②	早稲田大学	58
5		東北大学	34
6		一橋大学	34
7	③	中央大学	29
8	④	立命館大学	21
9		大阪大学	17
10		九州大学	15
・	・	・	・
・	・	・	・
23	⑧	上智大学	6
24	⑧	関西学院大学	6
25	⑩	専修大学	5
26	⑩	立教大学	5
27	⑫	北海学園大学	4
28	⑫	中京大学	4
29	⑫	関西大学	4
30		千葉大学	3

順位	私立	大学名	合格者数(人)
1	①	早稲田大学	187
2	②	中央大学	161
3	③	明治大学	147
4	④	同志社大学	119
5		金沢大学	118
6	⑤	立命館大学	115
7	⑥	日本大学	100
8		東北大学	98
9	⑦	法政大学	90
10	⑧	立教大学	74
・	・	・	・
・	・	・	・
30		京都大学	35
31	⑬	中京大学	34
32	⑰	上智大学	33
33	⑱	東洋大学	33
34		香川大学	33
35	⑲	北海学園大学	32
36		筑波大学	31
37		横浜国立大学	30

順位	大学名	18年度	19年度
1	国 北海道大学	50	66
2	私 北海学園大学	24	32
3	公 小樽商科大学	17	20
4	公 北海道教育大学	4	5
5	公 北星学園大学	5	3

試験名	全合格者	本学	占有率
札幌市役所(行政課)	101	10	9.9%
札幌市役所(消防職)	21	7	33.3%
北海道中級職	55	18	32.7%
北海道警察官(男子)	365	84	23.0%

	現役	既卒	合計
2003年	138人	213人	351人
2004年	133人	160人	293人
2005年	144人	165人	309人
2006年	173人	159人	332人
2007年	216人	137人	353人

紙面の都合上、一部割愛しております。

## 就職指導・支援



### キャリアカウンセラーの配置

本就職部には就職専門相談員である、キャリアカウンセラー有資格者(GCDF-japan)を配置し、きめ細かに学生の就職指導・支援をしています。

進路について悩んでいる、やりたいことが分からない...一緒に考え、解決を目指しましょう。学年を問わず、支援体制を整えています。



### 就職情報センター

本学の学生を支援するために就職情報支援センターがあります。就職情報センターでは北海学園大学オリジナルの就職関連資料を閲覧できます。

### 【就職情報センター利用時間】

平日・土曜 1部・2部  
午前9時00分～午後8時45分

### 就職部刊行物(一部)



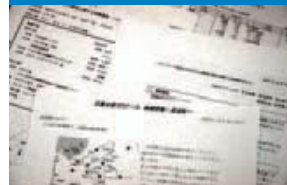
就職の手引き

公務員試験合格ハンドブック

資格取得講座







# 2007年度 地域研修報告会



研修の内容と方法は、実にさまざまです。対象は、中心街の活性化、観光のまちづくり、農業振興、地域ブランドの形成、地域内の雇用の現状など、多岐にわたります。それぞれの地域で活動にあたっている方たちへのインタビューが中心になりますが、いくつかのゼミは、あらかじめ準備した調査票をもとに、調査を行いました。短期間の調査は苦労も多いのですが、成果もまた大きいようです。

2007年度の地域研修報告会は12月8日(土)と12月15日(土)の2日間にわたり開催され、300人近い参加者を得ました。

報告会で発表したゼミの担当教員と研修テーマを紹介します。

浅妻 裕	◆北見市・網走市・陸別町 「ふるさと銀河線廃線の影響と過疎地の公共交通の今後」 ◆堺市・大阪市・京都市 「現場で学ぶ交通まちづくり」	竹田 正直	◆小樽市・石狩市・余市町 「地域の歴史と文化、食と風土に根ざした住民参加のまちおこし研究」
池田 均	◆函館市 「造船業(函館どっく)、漁業(昆布養殖)、遺跡(大船遺跡)見学・研修」 ◆牡警町 「牡警町の農業」	西村 宣彦	◆斜里町 「世界自然遺産・知床における自然保護の取り組みと斜里町のまちづくりの課題」
奥田 仁	◆函館市 「歴史と伝統が息づく函館の地域経済を学ぶ」	二瓶 剛男	◆函館市・牡警町 「函館市の産業(造船・昆布養殖)および牡警町の観光と農業」
川村 雅則	◆夕張市 「財政再建団体夕張市の見えない事実の発見～現地調査～再生へ」 ◆札幌市・旭川市 「ハローワーク求職者調査にみる今日の職場労働の実態と再就職状況」	平野 研	◆横浜市 「造船業の現状と課題、およびJICA施設を通じて移民の歴史、発展途上国の現状を知る」
北倉 公彦	◆長沼町 「グリーンツーリズム・part4」	古林 英一	◆標津町 「サケ漁業を中心とした産業形成」 ◆日高支庁管内 「サラブレッド生産の産業的拡がり」
小田 清	◆倶知安町ヒラフ地区 「外国人観光客増加に伴う地域への諸影響について」	水野 邦彦	◆幌加内町朱鞠内 「朱鞠内の朝鮮人強制労働現場の見学」
高原 一隆	◆ニセコ町 「ニセコから地産地消を考える」	水野谷武志	◆北見市留辺蘂町 「リサイクル社会の現状と課題(野村興産トムカ鉱業所の見学)」
		山田 誠治	◆函館市 「函館のまちづくりと地域メディア」 ◆沖縄県 「沖縄と地域メディアの役割」

## 地域研修参加者へインタビュー



■奥田仁ゼミ(北海道経済論)  
●研修地:函館市 2007年9月12日～14日

資料だけでは理解できない  
函館の“いま”に触れた貴重な体験。

●ゼミ長 南 康太

北海道の中でも、独特の歴史や文化を持ち、水産業が盛んな函館市を研修の舞台としました。今回は、5班に分かれ、それぞれ「函館・市電の今を知る」「北海道の水産加工について」「函館のイカ漁業」「函館駅前開発」「函館温泉街調査」という函館にちなんだテーマを設定しました。文化や歴史、観光、産業、暮らしなど、函館というまちを多彩な角度から調査・検証し、函館の現在を立体的に捉え、地域産業を肌で理解しようという試みです。当日は、各班に分かれ、テーマに沿った現地調査を実施しました。函館市役所や商工会議所、工業技術センターなどの公共機関をはじめ、水産加工会社やホテル、商店街などをそれぞれの班で訪問し、説明を受けたり、聞き取り調査などを行いました。事前に、資料集めや下調べをし、調査・質問内容等を訪問先にお知らせしていたため、立派なレジメを準備してくださったところもあり、とても感激しました。しかし、一般の方へのインタビューなどは、少し緊張しました。現地で生きた情報を集めたり、生の声を聞くことは、机上ではできません。まちの実情に触れることは、とても有意義な体験であると思います。今回の体験を機会に、さらに活発なゼミ活動を展開していきたいと考えています。



■西村宣彦ゼミ(地方財政論)  
●研修地:知床(斜里町) 2007年8月27日～30日

「世界自然遺産登録は、  
財政にどんな影響を与えたか」を知る旅。

●ゼミ長 奥山 智浩

平成17年に、世界自然遺産登録され、国際的にも大きな注目を集めている知床・斜里町を研修先としました。ゼミのテーマである地方財政を学ぶ中で、「観光という産業を中心に、地域を活性化し、税収を上げることで、地方交付税の削減や公債費による、圧迫財政を打開できないか」という議論に至り、その実情を知りたいという願望があったためです。知床では古くから自然保護活動が活発に行われ、その中で重要な役割を果たしてきたのが「100平方メートル運動」などで知られる知床財団です。財団のスタッフの方から、知床の自然や保護活動などのレクチャーを受け、生の現状やさまざまな問題点を理解しました。話題の自然を体験するために多くの観光客が訪れている姿だけをイメージしていた私たちですが、実際には、過剰利用によるアクセスや受け入れ体制の未整備、自然に対するモラルの低下による自然破壊など、いろいろな問題が起こっていることを知りました。また、財政面においても、他の市町村とあまり変わらず、年々、地方交付税が減少していく中で、切り詰めた運営を余儀なくされている現実も知りました。テーマである、観光産業と地域の活性化は、今の段階では明確に見えてきませんでしたが、豊かな自然や観光資源を抱える地域の、これからの課題を理解する上で、実に価値のある体験であったと思います。



## 過去から 受け継がれた史料、 今後はどう残すのか？

市川大祐 | 経済学部経済学科准教授  
(いちかわ だいすけ)



を利用する側の歴史学としてだけでなく、これら記録をどう保管・活用し、後生に伝えていくかアーカイブズ学の観点で考えていく必要があると思っています。アーカイブズ学とは様々な記録類を、どう整理・保管・活用していくかについての学問です。

現在、私はオーストラリア国立公文書館のシドニー分館に残された戦前期日本企業記録についての調査団に加わり、歴史学ではなく、アーカイブズ学の観点から調査を進めています。シドニーの公文書館には、戦前期にオーストラリアから羊毛を日本に輸入、あるいは繊維製品や機械を日本からオーストラリア向けに輸出するなど、様々な活動を行った日本企業の記録類が残されています。これらの会社が日々、売買や貿易に際して残した膨大な記録類は、1941年12月、日本と連合国との間に戦争が開始されると同時に、全て連合国であるオーストラリア政府の担当部局によって接収され、紆余曲折を経て（その過程については現在調査の途上にあります）現在、シドニー公文書館の書庫に納められています。

### 歴史学と史料

学生の皆さんにアンケートをとると、歴史が好きという方は、大きく分けて戦国時代派と幕末維新期派に分かれますね。経済というよりも人物や政治に関心があるようです。確かにどちらも歴史のダイナミズムを感じさせる時代ですし、登場人物も魅力的です。それに比べると、経済活動を追う経済史は地味に思われるかもしれませんがね。

歴史学では、主に文字で書かれた（必ずしも文字だけとは限りませんが）史料をもとに実証を進めていきます。昔の人物を知る上で何が史料になり得るのでしょうか？政治家の日記や、彼らの間でやりとりされた手紙、時の政府や機関で作成された公文書などが代表的な史料となるかと思います。また、近代においては新聞を使うこともできるでしょう。

それぞれの文章は意図をもって書かれていますから、当然「史料批判」が必要になります。すなわちそれら史料がどのような立場の人間が、どのような目的をもって書いたのかをふまえて、それら史料を読む必要があります。

身近な話で言えば、携帯電話会社が出している価格についてのパンフレットやCMを見ると、基本料金の安さを売りにしている会社は、他社との比較表も基本料金を強調した内容になっていることが多いでしょう。他方、通信料の定額を強みにしている会社は、比較している表も通信料の比較が強調されています。パンフレット類は、各社とも自社のプランの良さをアピールするために作っているのですから当然のことで、読む側としては、その辺まで考えた上で比較しないと、どれが自分にとって一番安いのか分かりません。

### 普通の人の、普通の生活

さて、文字を残した人ではなくて、文字を残さなかった人達はどう暮らしていたのでしょうか？私はその辺がとても気になります。日記は貴重な史料ですが、皆さんの中で日記をつけている人はどれくらいいるのでしょうか？日記を書き始めたけれども、数ヶ月で（あるいは数週間？）やめてしまった、あるいは日記をつけた事がそもそもないという人が現在でも過去でも大半を占めているのではないかと、という気がします。

また特別な事件や事柄ではない日々、つまり過去の日常生活はどういうものであったのかも、気になります。特に新聞などは、「何か普段と変わったこと」があるからニュースにするわけですから、何も変わったことのない日常は記事

になりにくいかと思います。これは今も昔も変わりません。最近も母親の子殺しといった、いたましい事件が新聞やテレビニュースで報じられ、時に家族の崩壊や社会問題として論じられています。ところが、このような記事は明治期の新聞にも、しばしば見られるのです。裏返して言えば、そういう行為はいけなく、あり得ない、大半の人はしていない、という日常生活の規範がまずあって、それから外れたことであるから、明治の世も平成の世でも記事となるのでしょう。

（決して、上記のような事件は昔からあるのだから問題がないといっているわけではありませんよ。念のため。）

### 経済史研究の面白さ

普通の人の日常を知る上で、経済史というアプローチは強みを持ち得ると思います。文字を残さない人々も、意図するにせよ意図しないにせよ、日々、何か物をつくって売る、あるいは、お金を支払って何か買うといった経済活動には色々な形で関わってくると考えられます。たとえば私が調べている肥料商には、大福帳をはじめとして様々な帳簿が残されています。一見数字の羅列に見えるこれら史料ですが、肥料を買うという経済行動の中から、農民の実態が見えてきます。不況の時期には肥料代が収穫期になっても払えず、借金が利息とともに次期に繰り越されている様子や、明治後期以降、徐々に化学肥料が導入されて、農業のあり方が変わっていく様子が顧客別に綴じられた帳簿の中から浮かび上がってきます。

### オーストラリアに残された日本企業の記録

他方、最近はこちらの記録（史料だけでなく、映像、モノを含めて人々の活動を伝えるモノ）

### 記録をどう後生に伝えていくのか

これら業務文書の中には、綺麗にファイリングされたものばかりでなく、41年12月開戦間際まで業務を行っていた生々しい文書もそのまま箱に詰められて残されています。これら記録は、単に書かれている文字だけでなく、どのように残されているのか、といった形態自体も重要です。日々の業務の中でどのような文書が作られ、どのように処理されていたのか、接収文書は、それをよく伝えてくれます。これら記録を、残されていた形を崩さず、しかし劣化しないようにどう保管し、後生に伝えていくか、より良い方法を模索していかなければならないと思います。

近年、特に企業においては、日々の業務を伝える記録は、紙に書かれた手紙や報告書でなく、電子メールや、様々なソフトを用いたデータで残されています。簡単に改変され、消えてしまう可能性があり、かつ対応するソフトや機器が世の中から消えてしまったら、後生、これら情報は利用不可能になってしまうかもしれません。今後の経済史研究を考える上でも、これら企業記録をはじめとしたアーカイブズをどう保管・活用していくのか大きな課題になっていると思います。



シドニー分館でほこりまみれになりながら史料と格闘中

オーストラリア国立公文書館  
シドニー分館





# 私の履歴書

[みま たかと]  
**美馬 孝人**  
経済学部経済学科教授  
[専門:社会政策]

## 経歴

- 1942年 ●岩見沢市に生まれる
- 1965年 ●北海道大学経済学部卒業
- 1969年 ●同大学院経済学研究科中退
- 1969年 ●北海学園大学経済学部講師
- 1981年 ●同教授～現在に至る

## 主な研究業績

- 『社会政策を学ぶ』(共著)有斐閣1976年
- 『社会政策(1)』(共著)有斐閣1979年
- 『社会政策講義資料—イギリス社会と社会保障—』自費出版1984年
- 『貧困との闘い』(訳書)梓出版社1986年
- 『イデオロギーと社会福祉』(共訳)勁草書房1989年
- 『イギリス社会政策の形成』(訳書)梓出版社1997年
- 『イギリス社会政策の展開』日本経済評論社2000年



## 悪戯が過ぎて卒業留め置き

私の履歴書といっても、単純そのもので全く面白くないので、年を重ねる中で遭遇した幾つかの事件を紹介しようと思います。

私は岩見沢駅の北にあった国鉄官舎で生まれましたが、父が戦争に行った後、母は近郊の志文町に移り4人の子供を育てました。志文町は国鉄室蘭線と万字線の分岐点で、山あり川あり湖ありの農村地帯でした。敗戦後の貧しい中で、子供たちは朝から晩まで自然の中で遊び回り、たまに農作業や家事の手伝いをして家計を助けていました。私が腕白小僧であったことはいうまでもありません。中学生になった時、大学進学を志をもった一人の少年が日高のえりも町から転校してきました。当時は小学区制で、この少年は岩見沢東高校を目指しており、私たち同級生の多くはこの人に引っ張られて同じ学校に進みました。

高校時代の気ままな生活もそれほどボロを出すことなく終えようとしていた3年の卒業試験で、私はある教科を0点でも卒業可能と判断し、答案上に何気なく、当時読んでいた火野葦平の小説名を書き出してしまったのです。それは単独で書かれた時には誠にけしからぬ言葉であり、果たして高校から呼び出し状が送られてきました。心配した父が同行してくれましたが、次々と偉い先生方が叱責と説教をしに現れ、卒業は一時留保となりました。次に出頭した時、その教科の先生が現れ、「ア、お前だったのか。しかしつまらぬことはするなよ」との言葉があり、厳罰は免れて卒業を許されました。



大学1年生の頃  
(アルバイト用に撮った写真)

## またまたつまらぬ意地を張って

そのようなことがあったにもかかわらず、大学卒業時に「北大三奇人」と噂されていた先生の一人とまた諍いを起こしました。それはレポートの提出場所を巡ることで、私はその先生が提出場所を言わなかったのに、レポートを持って研究室に尋ねに行ったのです。その時運の悪いことに、若い助手らしき人が居て本から目も放さずに、「そこに置いていけ」

と指示したので、そこに提出した気でいたのです。すると卒業時に成績がついていないので、再び研究室を訪れて質問したら、提出場所が違うというのです。ここで大激論になりましたが、結局単位をくれませんでした。大学院に進んで再びこの科目を履修した時、授業後その先生は私を呼び、「お前も強情な奴だな、もう出なくても単位はやる」と言ってくれましたが、私は授業に出続けました。その後、その先生は授業後しばしば、私に学問のことなどを語ってくれて親密になりました。先の高校の先生とも親しく語り合うことになりました。中学時代からともに同じ大学に進んだ友人は、今ある会社の社長をしています。

## マルクスにはまる

私は高校時代に河上肇の『貧乏物語』や『第二貧乏物語』を読んでいて、就職のことを考えて経済学部に進みましたが、自分の進むべき道を求めて大学1年の時に長谷部文男訳『資本論』全5巻の読破に取り組みました。1年余でこれをやり遂げましたが、本当に分かってきたのは2回目に読み始めてからでした。その論理展開の巧みさには、今でも感心してしまいます。経済学部の講義はこのおかげで理解しやすかったと記憶していますが、翻訳の仕方の違いが重要な意味を持つことに気付かされたのは後のことでした。例えば資本論の論理展開の中で、企業者利得と企業利潤を同じものと理解できますか。

この当時、学生運動も盛んでしたが、労働運動も最後の絶頂期にあったといっていました。現実の社会問題をマルクス経済学を基礎として分析した研究書が盛んに出版されており、私たちが現実にも立ち向かうために大いに勉強したつもりですが、どうしても解き明かしたいと思ったのが「資本主義経済下における労働者階級の運命」という大問題でした。これはマルクスの窮乏化理論と呼ばれて多くの研究者が取り組んでいる課題でしたので、



大学院ではマルクスとそれに関連する学説を勉強することになり、ここでいろいろな学者に出会うことになりました。

## 本学に来て

私は良い先輩達に恵まれましたが、本学に来たのも先輩の勧めがあってでした。本学に来て驚いたのは、長老の先生が多いことと、それまで私が勉強していた大学と政治的雰囲気为正反対なことでした。それは学生の中にもあって、初めは違和感を感じましたが、有難かったのは、それらの長老達が寛容で親切なことでした。そしてまた学生達が謙虚で学ぶ雰囲気が満ちていたことでした。いろいろな人と交流する中で、私自身の視野も広がったように思います。80才代の反マルクス主義の先生が私の話を聞きに来たり、70才代の2部学生がゼミに来たり、用務員さんが大学者であったり、私学でなければ経験できなかったことでしょう。戦前札商を出た会社社長とも友達になり、人間とは誠に多様極まるものであることを実感しています。ただ最近、大学のそのような多様性は薄れ、画一化に向かっているのは残念なことです。



## 学生諸君に一言

ゼミをやっている感ずるのですが、学生諸君の中に、「自分は無責任な人間だ」などと公言したり、「そんな仕事には向いていない」と言って、与えられた任務から逃避しようとする人が多くなっているようです。しかし物事に誠実に向き合い、困難な仕事をこなしていく中でこそ人間性は鍛えられるのです。将来会社の中で、もしも皆が労働者の権利を主張することなく、会社の言いなりになっているとすれば、そこは労働者が人間として働ける場ではなくなるでしょう。安易な自己保身はやがて自分をも滅ぼします。大学では社会の中で自分をいかにして守るか、ということも勉強してほしいものです。



# 産官学連携講座（経済学部特別講義）

【コープさっぽろ寄付講座Ⅰ】

## 「21世紀・北海道の将来を展望する」

本学経済学部では、生活協同組合コープさっぽろ様から寄附を受け、2007年度後期から経済学部特別講義として「コープさっぽろ寄附講座」を開設することになりました。「21世紀・北海道の将来を展望する」をメインテーマに、北海道在住の多分野にわたる有識者から「あるべき北海道論」について様々な視点からご講演いただきました。本講座は学生のみではなく一般市民にも公開講座として開放し、230名以上の受講生が集まり、大変好評を得ました。また、受講生からいただいた意見や感想からは北海道の新しい地域づくりを考える道標として大きな成果があったといえます。

これらの講師の方々からご講演いただいた「あるべき北海道論」は、次世代を担う若者に北海道の将来に期待と展望を持って活躍してもらいたいという願いを込めて、平成20年4月に書籍として発刊される予定です。

9/21	松村 喬 (生活協同組合コープさっぽろ副会長理事)
9/28	高橋はるみ (北海道知事)
10/5	林 美香子 (スローフード&フェアトレード研究会会長)
10/12	矢野 征男 (ホクレン農業協同組合連合会代表理事会長)
10/19	ヒロ 中田 (株式会社リクルート北海道じゃらん取締役編集長)
10/26	平 公夫 (株式会社ナショ代表取締役社長)
11/9	菊谷 秀吉 (伊達市長)
11/16	上田 文雄 (札幌市長)
11/30	高野瀬忠明 (雪印乳業株式会社代表取締役社長)
12/7	児玉 芳明 (株式会社北海道フットボールクラブ代表取締役社長)
12/14	高向 巖 (北海道商工会議所連合会会長)
12/21	大見 英明 (生活協同組合コープさっぽろ理事長)



講義は200人以上の参加があった



熱心を受講する市民からの参加者

【市民公開講座】

## 「地域研究・札幌市」

学生の多くは札幌市に居住し、そこで働き、学び、生活し、さらには自己啓発のために様々な分野で活動しています。その札幌市は、「住んでみたいまち」「魅力的な市」の全国調査では、常にトップクラスにランク付けされています。経済学部では、どこにその魅力があるのか、詳しく「札幌市全体・各区」の地域実態を知るために、「札幌市の成り立ち」「スポーツや文化振興」「札幌市の将来計画」、「大学周辺（豊平区・平岸）のまちづくり実践」等々、基礎的な認識を深めることをテーマとした講義を、札幌市・区役所、民間の第一線で活躍されている講師をお招きして開催しました。講義をとおして実社会における様々な問題を知ることで、地域づくりにおける課題や現状を深く学ぶことができたと思われまます。受講後の学生からの声や講義内容などの詳細は、実績報告書として経済学部ホームページ上で公開する予定です。

9/28	小田 清 (北海道大学経済学部長・教授)
10/5・12	榎本 洋介 (札幌市総務局行政部文化資料室・新札幌市史編集員)
10/19	金谷 学 (札幌市経済局産業振興部産業振興課庶務係長)
10/26	竹津 宜男 (NPO法人北海道国際音楽交流協会副理事長)
11/2	児玉 芳明 (株式会社北海道フットボールクラブ代表取締役社長)
	柿崎 昭 (札幌市観光文化局スポーツ部企画事業課長)
11/9	小松 宏人 (札幌市清田区市民部北野まちづくりセンター所長)
11/16	丸田 剛久 (札幌市市民まちづくり局企画部都心まちづくり推進室長)
11/30	中川 昭一 (豊平17分区町内会長)
12/7	中川 昭一 (平岸中央商店街振興組合理事長)
12/14	村木 正隆 (札幌市豊平区役所市民部地域振興まちづくり調整担当係長)
	中川 孝 (札幌市豊平区役所市民部地域振興まちづくり調整担当係長)
12/21	「豊平をどうする～総括討議＝受講生からの質問を受けて」



受講生と講師陣による討論会



本講座は2部(夜間部)に開講された

講義・ゼミ充実企画  
(基礎ゼミナール)

## NIE (Newspaper in Education, 教育に新聞を!)

### 【NIEについて】

皆さんは新聞を読みますか？学年にもよりますが、まわりの学生に聞いてみても新聞を毎日読んでいるのは1,2割程度といったところでしょうか。しかしながら、新聞を手にとりてめくってみると、社会、政治、文化、生活、経済、国際などの様々な領域の情報に加えて、例えば、いま話題になっていることについての特集記事や、異なる意見がぶつかりあう「対論」ものなど興味深い情報が盛りだくさんであることに気がつくでしょう。しかも、それをもって朝刊1部がたった130円程度というお得なお値段です。メディアが多様化している現代社会においては、インターネットによる情報収集ももちろん重要です。しかしながら、記者の取材・調査にもとづいて書かれた新聞(記事)という媒体は、良質の情報を私達に提供してくれるものであり、現代社会を読み解く上での羅針盤的存在ともいえるのではないのでしょうか。「常日頃から、新聞を読んで幅広い分野の情報を吸収しておくことで、あなたの知識はもちろんのこと、モノの考え方や生きる領域も豊かなものになる。」経済学部ではそう考え、第一線で活躍し経験豊富な新聞記者のご協力も得ながら、新聞を使った授業をいろいろ実施中です。それがNIEです。皆さんもぜひ、新聞を読む習慣を身につけてください。

### ◎毎日新聞 テーマ「北海道経済の課題～拓銀破綻から10年を迎えて」

拓銀はなぜ破綻したのか、拓銀破綻を目前にして関係者はどう動いていたのか、10年を経たいま、検証する。(2007/12/21)

### ◎北海道新聞 テーマ「新聞をどう読み解くか？」

インターネット社会で新聞は果たして生き残れるのか？新聞の読み方から新聞の果たしている役割まであらためて説く。(2008/1/11)



## 経済学部市民公開講座

「北海道・大地と海からの発信」

広大な大地では稲作・酪農を主体に、地域によって特色のある農業が展開され、周囲の海では豊富な水産資源を背景に様々な漁業が行われています。しかし、そこでは多くの問題を抱え、そのうえ国際問題も厳しさを増してきています。本講座では、北海道の大地と海で繰り広げられている農水産業のさらなる可能性と課題について、受講者とともに考えました。



北倉 公彦 教授  
「北海道農業の  
発展可能性と課題」  
太田原 高昭 教授  
「道産米  
—苦難と栄光の物語」  
池田 均 教授  
「海と漁業」  
古林 英一 教授  
「馬による地域振興」

発行:北海学園大学経済学部 econ. No.17 2007年 冬号

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL.011-841-1161 (代表) FAX.011-824-7729

●経済学部ホームページ <http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/>

経済学部エコン

検索

